文化遺跡保存と社会基盤施設建設の対立問題の合意形成に向けた CVM の適用

熊本大学 大学院 学生員 藤 泰久
 同上 工学部 正 員 柿本 竜治

1. はじめに

今日、公共事業の遂行するにあたり、当該事業に関わる地域住民から意見を聴取することは不可欠となっている。特に当該事業遂行に関して地域住民間に対立が生じた場合、合意形成のために議論の場を設けることは重要である。しかしながら、地域住民全員の参加の上で議論を行うことは不可能であろう。当該事業に関するワークショップや検討委員会に住民代表に参加してもらうことによって、意見を聴取し、事業に反映させることも可能であるが、出された意見が大多数の意見を本当に反映している保証はない。そこで、地域住民へアンケート調査を行い、住民代表が参加しているワークショップや検討委員会にその結果を示して議論を重ねることで、多数の意見を取り入れながら議論の内容を深めることができよう。ただし、アンケート調査において、賛否を問う質問に対して *yes* か *no* のみの回答では回答者の意識がどれほどのものなのかを比較しにくい。そこで、回答者の意識に金額などの尺度を持たせ、定量化することでアンケート調査の回答結果を比較しやすくでき、議論の内容をより深めていくことが可能であると考えられる。本研究では、熊本県八代市の麦島地区で都市計画道路建設中に発掘された城跡の保存方法に関する検討委員会において、住民アンケートに CVM (Contingent Valuation Method) を採用した事例を紹介する。

2. 城跡保存と道路建設における問題

八代市の麦島地区の都市計画道路麦島線は、昭和25年に都市計画決定され、昭和45年に第一期の事業認可されて以降、平成10年の事業完了に向けて継続的に道路建設が進められてきた。また、この地区は中洲地帯であり雨水対策の必要性から道路建設と同時に公共下水道の整備も進められていた。

一方、同地区では、昭和40年に麦島城の天守台跡地が発掘され、地区一帯は埋蔵文化財「麦島城跡」

包蔵地に指定されている。そのため、道路建設と同時に発掘調査も進められていたところ、平成8年に新たな遺跡が発掘され、それ以降歴史上貴重な城郭遺跡が次々に発掘され続けている。その結果、都市計画道路事業は2度にわたり事業期間が延伸され、完了予定は平成16年と6年遅延している。

同地区で問題となっているのは都市計画道路麦島線の完成道路面が麦島城遺跡面よりも低く、またその下に公共下水道が埋設されるため、遺跡の主要部分に影響が及ぶところにある。城跡を完全に保存する場合更なる事業の遅延が生じてしまう。そのため、この問題に関して八代市では麦島城跡検討委員会を設置し、麦島城跡の保存のあり方に関して検討を行った。

3. アンケート調査と結果

(1) アンケートの概要

今回のアンケート調査は「城跡の保存を道路建設よりも優先して欲しい(城跡保存優先)」という意見や「道路建設を城跡の保存よりも優先して欲しい(道路建設優先)」という意見等、城跡保存に対して温度の異なる意見があるため、「城跡の価値」と「道路建設事業の遅延による不満度」の金銭的評価値を各々算定し、比較することにした。しかし、これら2つの評価を同一人に聞くと、反対している意見に低い評価を行う可能性があり、各評価値の信頼性に悪影響を及ぼす恐れがある。そこで、麦島地区以外の八代市民には「城跡を保存する整備事業に5年間税金を支払うことの賛否」を、麦島地区住民には「当該事業の完了に変更が生じた場合、どの状況を支持するか」を問う2つの調査票を作成した。ところが、検討委員会で麦島地区住民代表より「アンケート調査を別々に行うのは公正ではない」という意見が出てきた。そこで、アンケート調査内容を統一し、冒頭の質問(問A)において「城跡保存優先」と考えているのか、「道路建設

キーワード 文化遺跡保存, 社会基盤施設, CVM, 住民参加, 合意形成

連絡先 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号 熊本大学工学部環境システム工学科 096-342-3537

優先」と考えているのかに選別し、それ以降に提示する質問内容に変化を設ける形式にした。調査票の全体的な内容は表-1 に示す通りである。アンケート調査は無作為に選ばれた麦島地区 500 世帯、麦島地区以外の八代市 1000 世帯を対象に行った。

(2) アンケート調査結果と分析

アンケートの有効回答率は麦島地区、麦島地区外ともに約 80% という高い結果となった。また、問 A に対する回答結果を表-2 に示す。ここで、問 B の結果より「城跡の保存」に対する支払意思額、問 C の結果より「当該事業の遅延に対する不満度」の金銭的評価値がそれぞれ算定されるが、麦島地区、麦島地区外では母集団に対するサンプルの比率が異なるため地区別に評価した。問 B の「城跡の保存」に対する支払意思額の中央値を表-3 に示す。問 C において、麦島地区の住民の「当該事業の遅延に対する不満度」の金銭的評価値は、「道路建設 1 年間遅延」に対して 13 万 8 千円/世帯・年、「雨水対策 1 年間遅延」に対して 7 万 8 千円/世帯・年となった。なお、麦島地区外については、道路建設や雨水対策遅延の影響が小さいため、「当該事業の遅延に対する不満度」の評価の算定は行わなかった。

(3) 委員会での議論の結果

以上のアンケート結果や委員会での議論を参考にして、麦島城跡検討委員会ではいくつかの代替案が

提示され、八代市に報告した。その結果、麦島地区の地元住民代表と麦島城跡の保存を求める市民団体が双方の主張を生かすかたちで同意した。両者は麦島城跡を長期的展望で保存・活用をしていくために協力する方針で、予定期間内に麦島城跡の価値を損なうことなく道路・雨水幹線が予定期間に間に合うような工法を行うよう八代市に要請を行った。これに対して八代市は、麦島城跡の国指定を目指すかたちで価値を損なわずに道路下に埋設し、道路建設を施工することを決定した。

4. おわりに

今回、委員会の中で CVM を適用させたアンケート調査の結果を用いて議論をし、地元住民と麦島城跡保存派が同意するという住民参加の合意形成の問題においては大変望ましい結果となった。また、信頼性においても特に問題はなかった。この結果、今回のような合意形成の問題に関して CVM を適用させることは有効であると思われる。

参考文献 栗山浩一：「環境の価値と評価手法 北海道大学図書刊行 1998

表-1 アンケート内容と質問項目

概要	麦島城の城跡及び道路・雨水建設の概要
問 A	「城跡保存優先」と考えているのか「道路建設優先」と考えているのかを選別する質問
問 B	問 A で「城跡保存優先」と考えていると選別された人に城跡を保存する整備事業に 5 年間税金を支払うことの賛否を尋ねる質問
問 C	問 A で「道路建設優先派」と選別された人に当該事業の計画完了に変更が生じた場合、どの状況を支持するかを尋ねる質問
問 D	アンケート回答者の属性（麦島城への関心度・性別・年齢など）を尋ねる質問

表-2 問 A の回答の集計結果

	城跡保存優先	道路建設優先	計
麦島地区住民	102 (25.3%)	301 (74.7%)	403
八代市民	307 (39.7%)	466 (60.3%)	773

表-3 問 B の結果による支払意思額

	1ヶ月	5年間
麦島地区住民	411 円 / 世帯	24660 円 / 世帯
八代市民	365 円 / 世帯	21900 円 / 世帯